

ベストクラス選定理由書

作成者：野添・人見・宮崎・弓場・阿部・西脇・有馬・初田

科目名称 初等家庭科教育法（Aクラス） （担当教員名：永田智子・岸田恵津・花輪由樹・星野亜由美・相川美和子・小林裕子・村田晋太郎・鈴木千春）	
課 程：学部・大学院（修士・専門職）	開講時期：前期・後期
授業形態：講義・演習	授業規模：81人以上
インタビュー対象教員名 永田智子先生 （実施日時：7月30日（木曜日）5限；実施場所：zoom会議）	
インタビュー対象受講者名 小暮香穂 柿木理那 （実施日時：7月30日（木曜日）5限；実施場所：zoom会議）	
<p>選定理由</p> <p>授業評価アンケートでは、81人以上クラスで平均値が一番高く、コメント数も多いことから、多くの学生の満足度が高く、充実した授業であったことがうかがえた。また、演習、模擬授業がバランスよく配されており、「楽しさ」を感じるとともに、学びの実感を得ることができる授業と捉えられていた。インタビューからは、以下のような理由が確認できた。</p> <p>①グループに分かれての実習や模擬授業であったため、疑問点が質問しやすかったこと。 衣食住の各実習では、30人ごとに2コマの授業が行われており、その中でも少人数のグループに分かれ、教員が数名配置されていたため、わからないことがあったらすぐに質問したり、同じグループの友達に聞いたりしやすい環境であった。 模擬授業では、4人のグループにわかれて、それぞれipadをつかって録画したものを、後日教員がコメントなどをつけて返されていた。授業中に教員が一人一人にアドバイスすることはできなくても、こうして全員にフィードバックをきちんと返していたことが学生から高い評価を受けていた。</p> <p>②自分が先生になったときに気を付けるべきことに着目して、実習が行われていたこと。 調理実習では包丁の運び方や使い方など、被服の分野ではミシンの糸のかけ方など、実際の指導場面をかなり意識した実習が行われていた。学生からのコメントで、「自分では気が付かないところまで指導してくれた」というものがあった。このように、実際に使える知識を学べるように授業が構成されていた。</p> <p>③ポートフォリオを用いて、授業の振り返りができるようにしていたこと。 毎回の授業後に、その授業で何をしたかを思い出せるように、15回の講義が見開き一枚に収まるように短く振り返りをしていた。学生にとって、毎回何をしたかが一目見てわかるようになっていたため、学びのプロセスが鮮明化され、成果の確認がしやすい授業になっていた。</p> <p>以上のことからベストクラス候補にふさわしいといえる。</p>	